

## 121122 小雪（オオアカゲラ）

今日（11/22）は、二十四節気の「小雪（しょうせつ）」です。

「小雪」とは、“そろそろ雪が降り始める頃だが、寒さも雪もまだそれほどではない…”といった意味でしょう。

明日（11/23）の「勤労感謝の日」は、もともと秋の収穫に感謝を捧げるため、旧暦十月（神無月）の二回目の「卯の日」に行われてきた「新嘗祭（にいなめさい）」の祭日だったようです。

さて、大阪平野で雪が降るのはまだまだ先のことでしょうが、日に日に寒さが増し、野外では次第に「冬」の気配が漂ってきました。

ときに、心と春を思い出すような“ぽかぽか”と暖かな日もありますが、このような日を「小春日和（こはるびより）」と言います。

そして、小春日和が何日か続くと、春の花が勘違いをしたのか、咲き出してしまうこともあります…

このような花のことを「帰り花」や「忘れ花」、或いは「狂い咲き」などと呼んでいますね。

平野部と違って山間部、中でも山頂付近は朝晩の冷え込みも厳しく、日中でも雪がちらつくことがあります。

そのような中、「大和葛城山」の山頂付近で珍しい野鳥を撮影することができました。

体長 28 cm くらいのキツツキ、「オオアカゲラ」です！

これまでも金剛山頂付近で「ドロドロ…」という大きな“ドラミング”の音を聞いていたのですが、その姿を確認することはできませんでした。

でも…

落葉樹の葉が落ちて見通しの良くなった林内では、注意深く音の発信源を探してみると、その音の主を見つけることができるかも知れません。

（嘴（くちばし）で木の幹を繰り返して叩くことで連続音を出す「ドラミング」は、主に繁殖期に見られる行動ですので、今の時期は「キョッ キョッ」という声と「トントントントン」という木をつつく音をたよりに、その姿を探しました。）

### ◆写真：オオアカゲラ♂

◇この鳥、なわばりが 200ha（甲子園球場 50 個分）といえますので、少し小柄な「アカゲラ」の数十倍もあります。（アカゲラのなわばりは 3ha 程度）

◇つまり 1.5km 四方に 1 つがいしかいない計算になりますので、簡単には出会うことができない種なのです。

◇さらに、大きな枯れ木や倒木の多い広葉樹林内で生活することから、そのような樹林の少なくなった現在、非常に希少な種となってしまいました…

◇ちなみに、都道府県の RDB（レッドデータブック）を見ると、30 都府県が本種を掲載しており、近畿地方では大阪府・兵庫県・京都府・三重県が「絶滅危惧Ⅱ類」に、奈良県・和歌山県・滋賀県が「準絶滅危惧」に分類しています。

